

葬儀社だからできる 終活を目指して

昨年暮れの流行語大賞に選ばれ最近では日々、雑誌新聞テレビなどで取り上げられる「終活」について終活の第一人者として、今をよりよく生きるための終活を提唱する一般社団法人終活カウンセラー協会 代表理事武藤頼胡氏と葬儀社だからできる終活を目指す(株)神奈川こすもす代表取締役清水宏明氏に対談していただきました。

清水 今、終活セミナーや終活相談会など世間の注目を浴びていますが、世間の「終活」という言葉の捉え方はまだまだ「終わりの準備」ということこのように思えます。

武藤 終活という漢字をみて「終わる」「活動の活」であり、婚活などは結婚活動の略だとすれば単純に「終焉活動」の略を考えるのが普通です。

すよね。

清水 葬儀社が「終活」と伝えるとお葬式の準備を早くしたほうが良いという啓蒙活動のように伝わりますが、私は終活をした先にあるものを大切にしたいと考えています。

人間は「死」から逃れることができない存在であり私たちは死の前後から遺言、医療介護、相続、葬儀、墓、お金のことなど数多くの問題に直面します。そういうことを先延ばしにして不安を抱えているより自分が元気なうちにしっかりと取り組み、限りある人生をいきいき過ごすほうが幸せだと思います。

武藤 なるほど、清水さんは終活をいきいきとした人生を過ごす一助とお考えで、この価値を提供されているんですね。私も最近、死というものを生と隣り合わせなんだなというふうに思うようになって



人は生まれたときに決まっていること
があります、それは
いつか死ぬということ
です。

悲しみやさみしさなどを
じっくり受け止めサポ
ートをしています。

りました。つい普段生活をしていると「死」と「生」には大きな隙間があるような感覚でいるんですね。私は終活セミナーの中で「人は生まれたときに決まっていることがありますが、それはいつか死ぬということ」と話すようになってから自分でもその言葉の意味をより深く考えるようになったんです。

清水 武藤さんがおっしゃるように、「死」というものは「死」という事態が起きてか

らだけでなく「死」を意識した時から一人で抱えられない問題にぶつかることもあります。そこに葬儀社が終活に関わる意味を感じています。

武藤 もう少し詳しく教えてください。

清水 葬儀社は、なんとなく亡くなったあとに必要になってくるこのイメージですが、実は私たちは、悲しみやさみしさなどをじっくり受け止めサポートをするということにも重きを置いていま

プロフィール

株神奈川こすもす 代表取締役
清水宏明 (しみずひろあき)

「100通りの人生には100通りの葬儀を…」との考えから、型にはまった葬儀社主導の葬儀サービスではなく、生活者の「想い」を重視した「家族葬」を提案。安心価格をモットーにお葬式費用の低価格化と葬儀情報公開に努める。著書に「葬儀のルール」(清水宏明 著 出版元:エル書房)

プロフィール

一般社団法人終活カウンセラー協会理事
武藤頼胡 (むとうよりこ)

リテアライン株式会社代表
明海大学ホスピタリティツーリズム学科外部講師
「終活カウンセラー」の生みの親。自身も終活カウンセラーとして活動しながら、「終活」についての大切さを一般目線で伝えるため、毎月巣鴨、浅草でアンケートを実施中。リテアライン株式会社では、葬祭業のコンサルタント事業を展開。お客様目線とクライアント希望の両方を加味した提案を心がけ実践中。

